

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2773100827		
法人名	特定医療法人清翠会		
事業所名	まきグループホーム 3 階		
所在地	大阪市旭区生江2-14-24		
自己評価作成日	平成28年10月 28日	評価結果市町村受理日	平成29年2月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2773100827-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成28年11月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

何事においても入居者様の意志を尊重し、思いに沿った生活をしていただけるように心がけている。その為に職員は入居者様よりお聞きした希望・要望、また日頃の生活から見てくる生活習慣等の情報を職員全員で情報共有できるように記録に残し計画作成者に報告している。その情報をもとに計画作成者を中心として話し合い、決めるようにしている。全員で考え、一つのチームとして何事にも取り組むようにしている。生活環境としては季節感を常に感じていただけるように、壁には職員と入居者様と一緒に作成した季節に合った壁画を飾るようにしている。また、家族様に対しては、面会時に日頃の入居者様の生活状態をお話するようにし、家族様との架け橋となるように心がけている。皆様高齢となっておられるので体調の異変が無いかには注意し気になる事は管理者に相談するようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に「保健、医療、福祉を通じて地域の皆様の健康で豊かな生活を支援します」と掲げている。入居者様も含めた支援を行っており、毎年品質目標を設定し申し送り時に読み上げ意識を高めている。半期に一度中間評価を行っている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会にも加入し、回覧版や、運営推進会議で地域の情報をいただいている。地域のお祭りに出かけたり、行事に参加し地域の方と交流を図っている。子ども会の子どもさん達とも七夕などの行事に参加していただいている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員はキャラバンメイトのフォローアップ研修に参加しているが本年度は地域へ向けての取り組みは出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し地域、包括、家族の方に活動状況を報告している。ご意見をいただき活用するようにしている。地域の情報もいただきイベントにも参加させていただいている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険制度に関しては旭区役所の介護保険課の担当者に相談をすることもある、事故が発生したときは行政に届け出を行い対策についても相談しアドバイスをいただく機会がある		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修を実施し、どのような事が身体拘束となるのかから説明をして、職員の理解を深めることができるよう取り組んでいる。参加できなかった職員へは資料を配布し自身のケアの内容を振り返りをするようにしている		

まきグループホーム(3階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修を実施し、職員の理解を深めることができるように取り組んでいる。通報義務の必要性も伝えている。参加できなかった職員へは資料を配布、全員の職員自身が振り返りができるようなレポート形式にしている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	所内研修にて研修・話し合いを行っている。資料等手に入れば各職員回覧出来るようにしている。三階に安心サポートを利用しておられる方がおられ金銭面では相談している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に家族様、またはご本人に内容を説明し不明な点に関してはご連絡いただくように説明を行っている。事前見学もして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会では懇談会を実施し、参加された家族様から一言お話をさせていただくようにしている。参加されなかった家族様にもアンケートを実施している。アンケートにて得られた意見に関してはすべてに回答をしている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフのみが参加する職員ミーティングを定期的に関催をしている。全員が率直な意見を出すことができるように事前に議案を募っている。話し合われた内容は運営会議で検討し職員に返している		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の職員に対する処遇が以前より改善されている。過度な残業にならないように配慮し、各職員に個々に困り事等ないかの声かけするようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職者は接遇研修を、年数経た職員には介護職研修や個々に見合うと思われる外部研修の声かけをしている。又認知症実践者研修にも毎年応募している。定期的に考課を行っている。		

まきグループホーム(3階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	旭区内でグループホーム連絡会を行っている。他グループホームに一日見学に行ったり、旭区のグループホームとの相互交流を行っている。その際は全員にそういう場に参加出来るようにシフト等配慮している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	各職員が新入居者様との関わりにより得た情報を共有する事により困り事や不安が解消できるように話し合い行き寄り添うようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時や入居時に家族様のみと管理者や計画担当者が面談出来る機会をもつようになっている。家族様の悩み事にも時間をとりお聞きするようになっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様又は入居者様にとって今何が困り事となっているのかお聞きこちらで出来る支援内容についてお伝え相談するようになっている。在宅での生活が継続したいとおっしゃられる方にはサービス内容や手続き方法について説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事全般、外食・外出を共に行うことにより喜びや楽しみ等を一緒に感じ家族のように生活できるように配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	疎遠気味の御家族様には、こちらから連絡する時やお会いした時には近況を報告するようになっている。家族様の面会時には計画担当者を中心に日常の様子をお話したり、ご家族の要望をお聞きするようになっている。又各入居者様がよく口にされる望み等があればご家族様にお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様やご本人の意向に沿えるように聞き取りを行い、馴染みの理容店やスーパー等にへ出かけていただくようになっている。近くに住んでおられた方が手土産を持って訪ねてこられ居室にて楽しい時間を過ごされることもある		

まきグループホーム(3階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士お話ししている時にでも会話内容やその方々の表情等に留意し円満なコミュニケーションが図れるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居中に亡くなられた方のお葬式等に参列させて頂き故人を家人様と共に送迎するようにしている。在宅生活に戻られた方については直接ご連絡はしていないが近隣の方については包括等に情報をお聞きするよう心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご希望は基本的にはご本人にお伺いしているが困難な場合は家族様に聞き取りを行いご本人の思いに可能な限り寄り添えるようにしている。ケアプランに反映できるようにカンファレンスを行い話し合いをしている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される時にはご本人様や家族様にお聞きしている。生活していくうちに習慣等を把握し又はお尋ねするようになっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	何事も強要する事なくご本人様の要望を聞くようにしている。生活見守るが故にわかる心身状態の変化を見逃さない様に気を付けている。居室でご飯を食いたいとの意向の方には食べて頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを行うときは全員が参加できないためコメントシートを作成し、職員個々の意見を書くようにしている。モニタリングの時には家族様のご意見を伺うようにしている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った介護日誌を記入する事により問題点を見出し話し合いを行い介護計画の見直しを行っている。各入居者様の思いに近付けるようにセンター方式を使用している。		

まきグループホーム(3階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の体調異変時に、家族様が受診同行出来ない時には管理者や職員が対応している。結果はすぐに家族様に連絡している。ご家族様も高齢化してきておられるので買い物等もこちらでする事も増えてきている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署にお願いし避難訓練等定期的に行っている。地域の防災訓練にも入居者様と職員が参加させて頂いた。又地域のお祭りや催しなどに入居者様をお連れしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に今までのかかりつけの医師との継続を希望されるか確認を行っている。ご本人や家族様が希望された時はかかりつけ医に受診をしていただいたり、個別に訪問診療を受けていただいている。体調不良時はかかりつけ医と職員とが連絡を取れるような体制にしている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師であり、職員は入居者様の変化に気付いた時、すぐに報告ができる環境である。24時間の連絡体制がある、その都度相談や指示を受けることができる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人内外の病院であってもサマリーを作成し、面会を行いご本人が安心して治療を受けることができるようにサポートしている。家族様、医療機関とも連絡を密に行いながら可能な限り早期退院できるようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には重度化指針、看取り指針に基づき説明を行っている。延命処置が必要な時の意思確認書も頂いている方もおられる。終末期を迎えるにあたり、どこでどのように過ごされたいか、ご本人や家族様と医師と十分に話し合いを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当については随時管理者より指導をうけている。緊急時マニュアルを整理しを職員がすぐに見れるように置いている。		

まきグループホーム(3階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内の防火訓練は夜間を想定し定期的に行っており、地域の方にも声をかけさせていただき参加していただいている。運営推進会議の場でも話し合いを行っている。近隣の小学校で行われた地域の防災訓練に入居者様にも参加していただいた		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月接遇チェックシートで言葉使い、声のトーン、プライバシーの保護に関して自己チェック、主任がチェックを行っている。不適切な場合はコメントを記入し注意を促している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は日常の中で入居者様の要望をお聞きしたり、また御自身では中々希望をおっしゃらない方には日頃の様子より希望を推察しご本人様の望みに沿った生活をして頂けるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れの中で食事時間・レク活動の時間・掃除の時間等の声かけはするが拒否があったり、居室で食べたい等の訴えがあった時には本人様の希望に合わせて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時には出来る方には声かけをし、できない方は職員が整容をおこなっている。意思決定出来る方には洋服は職員が決めるのではなく本人様が着たい服を着用していただくようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	家族様やご本人の意向に沿えるように聞き取りを行い、馴染みの理容店やスーパー等にへ出かけていただくようにしている。近くに住んでおられた方が手土産を持って訪ねてこられ居室にて楽しい時間を過ごされることもある		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量をみて少ない方には栄養価の高い物を追加で食べて頂いている。排尿に関しては個々に排泄状況をチェックしている。可能な限りトイレで排泄して頂くように表を見ながらトイレ誘導を行っている。排便は排便チェック表にて毎日確認を行い申し送り時に伝えている		

まきグループホーム(3階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけしている。歯科医より指導あった方はその通りにしあとの方も義歯は定期的にポリドントをしたり夜間はお預かりするようにしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄に関しては排泄チェック表を活用し個々の排泄状況を把握できるようにしている。可能な限りトイレで排泄して頂くようにしているがご本人が尿意を感じられるまで様子を見ることもある。排便は毎日確認を行い申し送りの時に伝達をしている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事時にはなるべく繊維の多いものをお出しするようにしている。便秘気味の方には起床時に牛乳をお出しするようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	介助量の多い方の入浴に関しては2人介助で安全に浴槽内に入って頂けるように調整を行っている。希望を確認しながら同性介助を行い、入浴がお好きな方はケアプランに取り入れて実施しているが時間の希望に関しては希望に添えない時もある		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床・入床も各入居者様のペースになるべく合すようにしている。リビング、居室の好きな方で過ごしていただけるようにしている。夜間浅眠と思われる方は朝もゆっくりと寝て頂くようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を各入居者様の個人ファイルに保存し各職員が何時でも読めるようにしている。身体症状の変化がある時には管理者に報告・指示・指導を受けている。新しく薬が処方された時は様子観察し介護日誌に細かく記録し職員が情報共有できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レク活動でも習字・塗り絵・計算ドリル・切り絵等色々用意し本人様に選んで頂くようにしている。時にはお好きな食べ物を食べに行ったり興味のある歌番組やスポーツ番組や舞台中継を録画して見て頂いている。		

まきグループホーム(3階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出計画が有る時には本人様の興味のある所に行っていたりできるように配慮している。地域のお祭りに参加した時には地域の方も協力してくださっている。長距離での歩行は困難な方が多く、車椅子が必要となり、職員配置の状況により一度に外出していただける方に制限がある		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御自身でお金を持っておられる方もおられる。預かり金としてお預かりし欲しいとおっしゃられる物を買えるように支援している。天候や人手等にもより一緒にお買い物にいけていないのが現状である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいとおっしゃられる方は一階の公衆電話まで同行するようにしている。かける事により混乱される方等もおられるので職員の見極めが必要な時もある。手紙を家族様にかかれる入居者様はお預かりし職員が投函している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下には月毎の皆様の生活の写真や、又塗り絵や算数ドリルを掲示させて頂き、職員と見ながら談笑したり、季節の花を机に飾り季節感を感じて頂けるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	他階に気の合う方がいらっしゃる方にはその方と一緒に出かけたりして頂いたり、お部屋の行き来をして頂いている。リビングの席は気の合う方となるべく座っていただけるように話し合い決めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものがあることでご本人が安心して暮らして頂けるよう、自宅で使用されていた仏壇や三面鏡等持ってきていただいている。お部屋でゆっくりと本を読まれたり、テレビ観賞などされる方は家族様と相談し机や椅子などを準備していただいている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には表札をつけ御自身の部屋とわかるように工夫している。バリアフリー設計となっている。刃物は引き出しに収納し鍵をかけている。電磁調理器使用時には職員は離れない様になっている。		